

新城市文化協会
ホームページは
▼こちら▼



新城文化

書 村田華城

編集・発行 新城市文化協会

◎つながろう 楽しもう
新城市長 下江洋行 P2~3

◎総会報告 P4

◎受賞者紹介 P4

◎受賞者作品・舞台紹介 P4

◎春の芸能祭 P5

◎県文化協会連合会事業 P5

◎文協俳壇 P5

◎新加入クラブ紹介(社交ダンス) P6

◎「第1000回演奏を1000人で」
(新城吹奏楽団) P6

◎新能の見どころ
能「経政」 狂言「悪太郎」 P7

◎長篠・設楽原の戦いから450年
新城市設楽原歴史資料館館長 湯浅大司 P8

どなたでも大歓迎
令和7年度 初心者入門講座

◎参加費 一講座(全5回) 2,000円
◎申し込み場所 文化協会事務局
(新城文化会館2階事務所東側)

◎お電話での予約をお願いします。

◎受付日 火・木・金曜日

9時~12時、13時30分~17時

(月曜日が祝日の場合は火曜日休み)

電話 2317656

☆きものを着て袋帯を結んでみましょう

日時..土曜日 午後7時~9時

(1月から2月の間で全5回)

会場..文化会館和室

講師..伊東 愛子

(きもの研究会・装賀きもの学院教授)

☆書を楽しむ一時を

日時..木曜日 午前9時30分~11時

(11月27日ほか4回)

会場..文化会館102会議室

講師..夏目 京山(書道クラブ)

☆ほっこり似顔絵入門

日時..木曜日 午後1時30分~3時

(11月27日ほか4回)

会場..文化会館101会議室

講師..吉倉 章雄

(新城美術協会・元中学校美術教師)

つなごろう 楽しもう

新城市長 下江 洋行



新城市文化協会の皆様による本市の文化行政に対するお力添えが、市民の文化意欲の向上に、ひいては文化のかおりがするまちづくりにつながっています。改めて敬意を表し感謝申し上げます。

新城市民憲章には、世代のリレーができるまちづくりのため「歴史と伝統を受け継ぎ、未来に誇れる文化を育てること」を掲げています。

本格的な人口減少時代をむかえた今、伝統文化を継承していくために大切なことの一つが「つながりづくり」であると考えます。市内外を問わず、幅広い年代層にわたり、活動の分野を越えたつながりの輪が広がることにより、文化を継承し育てていくためのすそ野が広がることはもちろん、「楽しい、面白い、嬉しい」が広がっていくことでしょう。

一昨年、新城市若者議会の発案により、人と人とのつながりを大切に、さらに広げていくために、ホー

ムページ「新城市趣味活サイト」を開設いたしました。現在40以上の団体にご登録いただき、活動内容の紹介をしていただいております。またほぼ同時期に、新城市文化協会のホームページも開設していただきました。デジタル主流の時代であります。こうしたプラットフォームを上手に活用しながら、つながりの輪が広がるサイトとして、進化発展していくよう協力していきたいと考えます。

新城文化を読んで、よく使われている言葉があることに気づきます。それは「楽しむ」です。新城の文化活動を語る上でのキーワードだと思います。何が楽しいかは人それぞれ千差万別ですが、楽しい場所には人が集い、にぎわいが生まれるのは、文化活動に限らず共通していることです。文化協会の会員のひとり一人が、自分が大いに楽しむことを第一の目的に活動することこそ、つながりづくりに直結するのではないかと感じています。

ここで恥ずかしながら、義務教育期における私の文化との関わりの一部を正直に告白します。小学生の時には、書道と絵画を習いました。母

が習いに行っていた書道教室に同行して見ているうちに、いつの間にか自分も筆を持ち、書くようになっていたと記憶しています。長篠地区にある書道教室の先生は、のちに中学校で同級生となった子の祖父にあたる方でした。そんな経験からか高校生の時は、書道の授業を選択しました。母と通ったことを懐かしく思い出すわけですが、ありがたいことに今でも筆を持つことに抵抗はなく、当時の経験が少しは役立っています。

や絵の具を使い、お皿にのったリンゴやミカンを見ながら、先生の絵のレベルに少しでも近づけるように、時間を忘れて夢中になっていたことを思い出します。そんな経験から美術の苦手意識はありませんでしたが、中学3年生の時の出来事です。期末に渡された通知表の美術の成績を見て、自分の目を疑いました。なんと5段階評価の2だったのです。当時の私にはショックな事件でしたし、どうしてだろうか、モヤモヤした気持ちの晴れない日々がしばらく続いたことを覚えています。ところでそんな出来事から40年以上も経った最近、こんなことがありました。昨年の市役所庁内での教育関係の会議の時です。「5段階評価の1、2の評価をつけるようなことがあったとしたら、それは生徒ではなくその教師の問題である！」授業はどうあるべきかなどを議論していた時の、安形教育長のひと言です。思わず当時の記憶がよみがえり、今さらながら我が意を得たりの納得感で、救われた気持ちになったものです。

絵画教室には、小学校の同級生と二人で通った思い出があります。場所は、現在の豊橋信用金庫新城支店の向かい側あたりであったかと思いません。当時、絵を描くことが好きな私に、親が絵画教室を探してくれたのではないかと想像します。鉛筆でのデッサンから始め、次にクレヨン

次に音楽関係であります。ややほる苦い経験もしました。中学時代には、フォークギターを楽しんでい

た自分がいました。主にフォークソングを弾いているうちに、ピアノが弾きたいと思うようになったのです。

そこで、新城市の町なかにある音楽教室の先生を訪ね、音楽関係の道を目指したので、ピアノを教えてくださいとお願いをしました。「いつから習いに來ることが出来ますか？」先生からこんな言葉が返ってくるだろうと思っていた私に、思わぬ展開が待っていました。「今からあなたに歌ってもらいます。まずは、発声練習です。」と。「どうして？」とやや戸惑いながらピアノの伴奏に合わせて発声したのです。直後に先生から「音楽関係よりも別の進路を考えたい方がいいですよ。」と、なんとも残念なお言葉をいただいたのです。そこで私は、いとも簡単に断念してしまつたのです。なんとしても習いたいという、強い意欲や信念がなかったんだと思います。もしかしたら、先生が私の本気度を試したのかもかもしれませんと思うと、ああ恥ずかしくも情けない思い出です。あれから35年ほどたった8年前のことです。

なんと、一期一会であつたはずの当時の先生と、偶然お会いすることがあつたのです。相変わらずのはつき

りとした物言いは、当時とまったく変わらず、凛とした態度や振る舞いに、これこそ真の指導者たるゆえんであると感じたものです。

これらは私の経験の一部ではありますが、習い事を通じて様々な人とつながり、オンラインワンの体験をさせてもらいながら文化に向き合ってきたと思います。何かひとつのことを継続していればよかつたのに、という後悔はあるわけですが、過去は過去のこととして、それではこれから自分が何をやるかです。

さて私個人のことではさておき、現在私の家族はそれぞれ、文化協会の活動の中に身を置いています。新城市民俳句会、書道クラブ、しんしろ文化財に親しむ会、盆栽教室などを楽しんでいられるのです。文化協会の会員でありながらも、文化祭などで各種団体の皆さんの活動を知り、作品を鑑賞することなどを中心に、新城市文化と触れあっている私ではあります。自分自身が活動の主体となつて、「楽しむ」ことを心がけていきたいと思います。

今年には長篠・設楽原の戦いから450年の節目の年であります。市内

各所にのぼり旗を、市役所には懸垂幕を掲げています。8月30日と31日に、戦国博覧会と称し、著名な歴史家の先生の講演を中心としたイベントを計画中です。広報やホームページでPRしてまいりますので、ぜひご参加くださいようお願いいたします。そして来年は、長篠城主であつた奥平信昌が家康公の長女亀姫様を娶り、初代新城城主となつて450年です。新城開府450年の節目の年にふさわしい催しを計画していきたいと考えています。

信昌が関東へ移つたのち、片桐半右衛門が城主となりました。そして関ヶ原合戦後に新城が天領となり、水野弾正忠分長が城主になりました。その後、菅沼定実が入城したという歴史が続きます。奥平家17代目の政幸様とは、最後にお会いしてからです。20年ほど経過していますが、今もつながりを大切にしています。また一昨年のことではありますが、水野家20代目の勝之様が、新城市にお越しになられましたので、お会いし話をする機会を得ました。今年も東浦町の於大まつりでお会いすることができました。こうしたご縁を大切にしていきたいと思います。

菅沼定実は、文武所である有教館を設けられるとともに、茶道を好まれた風流な方で、桜淵公園周辺が桜の名所となつたのも、このころに植樹されたことによります。菅沼定実の命日である11月4日に、宗堅寺の紅葉庵茶室で行われる献茶式に、昨年初めて参列させていただきました。宗偏流四方庵をはじめとする皆様方の作法流儀などからも、江戸時代から続く歴史ある新城文化の奥深さを実感しました。

私たちは、桜淵公園がこれから50年、100年先も、市民の心の拠りどころであり、県内屈指の桜の名所であり続けられるよう、行動を起すべき時を今迎えていると思います。現在ある桜の木の樹勢を保ちながら、寿命が近づき花の付き方が悪くなつている木の管理と、新たな植樹による再生などの取組みを考えてまいります。

最後になりますが、「つながりづくり」による新城文化協会の発展と、会員の皆様のご活躍による「楽しい、面白い、嬉しい」が広がっていくことを祈念申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

令和7年度
文化協会総会報告

副会長 亀甲 昌明

本年度総会は、5月25日(日)実施いたしました。コロナからの制約が全く消えた訳ではありませんが、その配慮も減り、また対策克服の体験も身に付いたこともあり、例年並みの企画のもと進めることができました。お忙しい中でご出席いただいた来賓の方々はじめ、早々とお集まりいただいた役員・会員・賛助会員の皆様のお陰であり、誠にありがとうございました。

会は、天野会長の挨拶、本年度役員の紹介、議事次第と滞りなく進行できました。(紙面の関係上詳細はお知らせ出来ませんが、必要な方はQRコードで文協のホームページや事務局へお問い合わせください)

ご来賓の方々は、ご祝辞をいただいた下江市長・長田市議会議員・安形教育長のお三方始め、鈴木市議会厚生文教委員長・原田市教育部長にご出席いただき、衆議院議員今枝様・県会議員峰野様からは祝電をいただきました。

また、協会の発展にご寄与ご尽力され大きな功績を残された方々に感謝状を贈呈いたしました。

◎受賞された方々

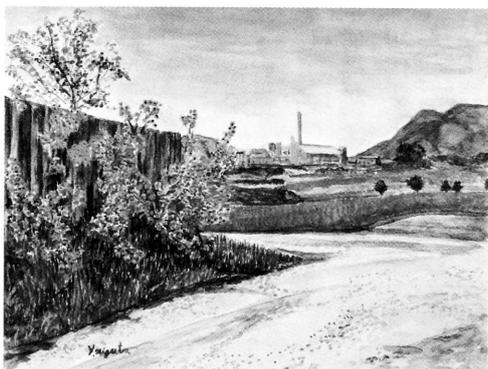
上段でご案内しましたように、今年には次の方々に感謝状を贈呈いたしました。(敬称略)

水田義久・加藤美水・中嶋和子
鈴木睦枝・白井洋子・濱口恭子
(当日、水田様は欠席されました。壇上での受賞は濱口様が代表で受賞され謝辞を述べられました。なお、受賞の方々の作品、舞台写真等は下段で紹介いたしました)

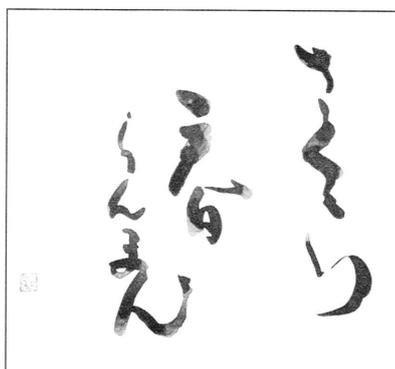


受賞の方々

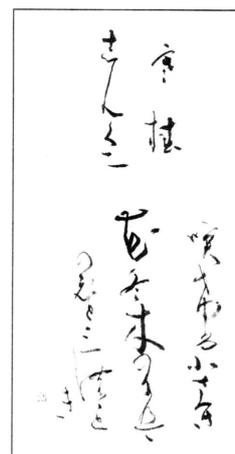
受賞者作品紹介 (敬称略)



水田 義久



中嶋 和子



加藤 美水



令和7年度
春の市民芸能祭出演
向かって
左端 白井 洋子
右端 鈴木 睦枝



春の芸能祭を終えて

大正琴桜洲会 阿部 和子

5月25日(日)、令和7年度新城市文化協会総会が開催され、その後、春の芸能祭が実施されました。総会終了後芸能祭が始まるまで1時間の空白があり、昼食が取れるのは良いのですが、総会に見えた方が芸能祭まで待つただけのか心配でした。12時天野文化協会会長の開会のことば、今枝宗一郎衆議院議員のご挨拶、舞台でスタンバイしている私達にも大きな拍手が聞こえました。大勢のお客様で良かったと安堵しつつ、私達大正琴桜洲会15名の演奏でオープニングです。いろいろな不安がありました、何のトラブルもなく3曲演奏しました。こうして元気に舞台上立つことができ、応援してくれる家族や友人に感謝です。続いて吾妻流 鬨季の会の舞踊です。しっとり優雅に踊る姿に見入りました。体力と集中力、それと長年の努力の賜物、大きな拍手を送ります。次は民謡研究会の皆様の息の合った踊りを見ることができました。曲に合わせた衣装、動きの変化、素晴らしいです。豊定会、てまり会、豊志慶会の皆様本当にありがとうございました。そして次は三喜流藤菊会のお2人が円熟の舞踊を観せてくださ

いました。普段は気軽に声をかけ合う仲なのに、舞台上立つと別人、流石です。圧巻だったのはフラダンス。次々と繰り出す衣装の数々、100名の方が11グループに分かれ、その度にお揃いの衣装で登場するのは見事でした。続いて大正琴奥三河支部の演奏です。ピンクの衣装で舞台一杯に並び、音の強弱、ベース、テナーの響きが曲に深みと広がりを与え、素晴らしい演奏でした。次のグループは桜結の会6名の皆様、清楚な装いから流れるおことの音色、澄んだ気品ある響きに吸い込まれ癒されました。最後は吹奏楽の皆様の登場です。次々と流れる懐かしい曲の数々、口ずさんだり、体を動かしたり、楽しいひと時でした。予定の間より遅れましたが無事終了することができました。発表の場があるのは練習の励みにもなります。この芸能祭にご協力くださった皆様、心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。ございました。



県文化協会連合会事業

○東三河部連絡協議会 4月24日(木) 新城文化会館

新城文化会館

○東三河部芸能大会 7月6日(日)

豊川市 新城市から民謡研究会出場

○県民茶会 10月19日(日) 大府市

○第50回愛知県文連美術展

1月20日(火)～25日(日)

県美術館ギャラリー

(県文連50周年記念として各事業を開催)

文協俳壇

《新城俳句勉強会》

口笛に藪の鶯呼応して

三三とみつまたの花陽を誘ふ

働哭の鐘の流るる原爆忌

富永 今泉真紗子

紫木蓮身に備はりし潔さ

春泥や人との距離の勘所

思ふまま生きるは難し西行忌

本町 大原 綾子

お守りのゆるるバックや受験の子

貸しボート待つ列長し花の下

黄砂降るシルクロードを感じる日

橋向 小沢 清子

川風や透けし袂の川床涼み

秋の色はらりと散らす風の私語

濃く咲いて黄昏ほのとすみれかな

菅沼 加藤有美子

大詩人言葉を連れて冬銀河
雨上り一目千匹アキアカネ
見得を切る皿のサンマよ高級魚

黒瀬 駒田孫三郎

やはらかな陽に蠟梅の香り溶け

ネモフィラの丘につながる初夏の空

落葉のいろもかたちも地に還る

東沖野 米谷 実紀

天空の南アルプス春うらら

塀の影赤く清しき実南天

さわさわと櫛芽吹くや風つれて

大野 下江とき子

指先をみんなで広げ春火鉢

うららかやヤギがお迎えパンの店

老木に力満ちくる木の芽時

上平井 長坂 真澄

神寂びて幣のゆるゆる木下闇

春耕に乾きし風の種の音

春愁や心いくつもありし日田

川田 濱口 恭子

秋時きの土をこまかく均しけり

夕闇に瀬音の響き天の川

東雲に飛び立つ鶯の淑気かな

海老 原田 静子

踏み入りて星空のごと白露かな

たんぽぽや地蔵はにかむ花冠

沢の水しびれて嬉し汗も消ゆ

大野 牧野和英子

日めくり買ふ先づこの厚みを

生きる気で

春の陽や我が影淡し野は若し

花は葉に吾が名を友に忘れられ

宮ノ前 亀甲 昌明

活き活きダンス ゆりの会

小西ゆり子

本年度より、文化協会に入会させていただきました社交ダンス「ゆりの会」です。代表を務めるゆり子の名前が、そのままの名前となりました。今回、天野会長よりお誘いをいただき、文化協会の加入となりました。

私自身、当時知り合いからダンスを誘われ、正直関心がないまま、気がつくとも25年も過ぎたことに今さらながら驚いている次第です。誰にでもあるような、ちよつとした繋がり、声かけ、感動、それが大きな輪になることを改めて思い知らされます。

さて、少し社交ダンスのルーツに触れてみたいと思います。

12世紀ヨーロッパ、特にイギリス、宮廷舞踏として輪になって踊る「ラウンド・ダンス」が、その後男女が向かい合って組む「ザ・ボルタ」と言う今の形が流行しました。18世紀にウインナーワルツの登場で社交ダンスの形が確立されたといわれています。日本には、明治時代に「鹿鳴館」の建立て西洋文化と共に社交ダンスが伝来しました。

元々夫婦が社交の場に連れだち、その場の人達とコミュニケーションをとり、場の和みを目的としていま

した。世界の人達との繋がりに大きく貢献したことは想像に難くないでしょう。

さて、25年前と現在の大きな違いは、新しい人が入会してこないという事です。映画「シャル・ウィ・ダンス」の影響で一世風靡したことが懐かしく感じるようになってはいけないと思う日々です。

ただ、逆に25年間同じ仲間達が続けているということに勇気をもらっています。最初は、手を取り合うことも恐る恐るが、いつの間にか当たり前にながれ、同じリズムで同じ足で、その空間を共有する。リズムや足が合わなくなると何となく違和感。人生の生活と同じような気がします。

音楽に合わせて体を動かすメリツトを実感しながら、体力年齢もアップして、取り合った手がお互い支えになるまで、沢山の人達と交流できるように、会の仲間達と楽しんでいきたいと思えます。

文化は時代と支持率でつくられていると思います。社交ダンスも、そのようになると、嬉しく思えます。



新城吹奏楽団 第1000回定期演奏会 「1000回を」

1000人の演奏で

新城吹奏楽団 団長 河合 秀明

昭和48年11月に設立した新城吹奏楽団も、今年で52年が経過しました。令和になって、新型コロナの影響で演奏会も開催できない時期もありましたが、令和7年5月11日に、第1000回定期演奏会を迎えることができました。数年前から、区切りの1000回には1000人で演奏できたら面白いということになり、新城吹奏楽団OBや近隣の吹奏楽団、音楽愛好家らに呼びかけ、70名を超える参加者を集めることができました。

当団のメンバーと一緒に演奏となると、約140名が舞台にのることになります。限られた時間の中で、地域も年齢も違う、そして当然技量も違う者同士が力を合わせて音楽を作り上げる。演奏曲目は新城東高校にも馴染み深い、アメリカの作曲家A・リード氏のアルメニアンダンスI・IIと決まりました。

原則2ヶ月に一度の合同練習を計画しました。令和6年8月31日からスタートし、10月19日、11月23日、令和7年1月18日、3月15日、そして5月10日の計6回です。しかし残

念なことに、初日の8月31日は台風の影響で中止せざるをえませんでした。結局5回の合同練習で本番を迎えることになりました。

吹奏楽をやっている者には馴染みのあるアルメニアンダンスI・IIですが、決してやさしい曲ではありません。それをたった5回の練習で完成させなければなりません。本当に間に合うのだろうか。不安はつるばかりです。

しかし不思議なもので、最初はぎくしゃくしていたものが、次第にまとまって素晴らしいハーモニーとなつて響き渡るようになる。音楽をやる者にとつて、喜びを感じる瞬間でもあります。

今回の演奏会には、豊橋市、豊川市はもとより名古屋市、岡崎市、浜松市、四日市市、島田市等から遠路はるばる駆けつけていただきました。本当にありがとうございます。ごさいました。



第34新城新能 「経政」

能楽協会（新城能楽社）

今泉 英三

新城新能は平成2年に当文化協会主催で始まり平成12年には文化庁長官から感謝状が授与されました。その後新城市主催へと引き継がれ今年8月23日（土）で第34回目を迎えます。当日は能の一部となる仕舞、連吟、連調、舞囃子もありますがここでは能「経政」のあらすじを紹介します。経政（経正）は平清盛の弟経盛の息子で幼い頃より京都の仁和寺、皇室御所の守覚法親王のご寵愛を受けた琵琶の名手でもありました。ところが一の谷での源平の合戦で、経政が討たれたので、親王は不憫に思い生前、彼にお預けになったことのある「青山（せいざん）」という銘のある琵琶の名器を仏前に備え、管絃講を催して回向するように、行慶僧都（そうず）に仰せつけになります。行慶は、管絃を奏する人々を集めて法事を行います。すると、その夜更け、経政の亡霊が幻のように現れ、御巾の有難さにここまで参ったのであると、僧都に声をかけます。そして手向けられた琵琶をなつかしく弾き、夜遊の舞を舞って興じます。しかしそれもつかの間、やがて修羅道での苦しみに襲われ、憤怒の思い

に戦う自分の姿を恥じ、灯を吹き消して闇の中に消え失せます。

この能は修羅能に分類され、一般的な修羅能は、修羅道に堕した武将が、あの世でも戦を続け、苦しみ、仏法によって救済されるさまを描くのですが「経政」は死後になお琵琶に執着する芸術本位の貴公子として描かれ、終わりに修羅道での苦しみを描くもその救済に主眼はなく、苦しむ自らの姿を見られることを恥じ醜霊として燈火を吹き消し消え去ります。また曲中で経政が琵琶を奏しますが、舞台上に琵琶を小道具として持ち出すことはなく、そのかわりに、扇を広げて左手で抱えるように持つなどして、琵琶を弾く風情だけを表現します。

なお、薪能当日に行われる能楽社会員による解説では、曲中で使用される能面などの紹介も交えると思いますのでご期待ください。



狂言「悪太郎」

新城狂言同好会

会長 天野 雅夫

34回目の開催となる新城新能です。私たち新城狂言同好会も狂言を上演します。郷土に290年余りにわたる受け継がれてきた伝統芸能の能楽を、薪能という形で皆様に身近に楽しんでいただきたいと願っています。

今年には狂言「悪太郎」を上演いたします。この「悪太郎」という狂言は、上演時間が40分程かかるなかなかの大曲です。とはいえストーリーも草も分かりやすい楽しい狂言です。より多くの皆様にご来場いただき、より楽しんでいただけるよう、あらずじと見どころを解説させていただきます。

あらずじ
日頃から大酒のみで暴れん坊の悪太郎が伯父の家を訪れます。伯父が世間に悪太郎の悪口を言いふらしているとの噂を聞いたためです。その真偽を伯父に詰め寄ると、どうやら偽の噂のようです。伯父の返答で真偽を確かめた悪太郎は納得し、帰りがけですが、伯父は1杯飲んでいけと酒をすすめます。酒飲みの悪太郎のこと、1杯が2杯、3杯と杯を重

ねます。したたかに酔った悪太郎は帰り道、道端に寝てしまします。

酔って帰って行った悪太郎を案じた伯父が後を追うと、案の定道端で寝ています。伯父は、この際悪太郎を改心させてやろうと一計を案じます。寝込む悪太郎を僧の姿に変え、名前を「南無阿弥陀仏」と付けるから、今からは善人となれるよう僧形となつて暮らせと、夢うつつの中に言い聞かせます。

眠りから覚めた悪太郎が先ほどの夢の中の出来事を不思議がっているのと、向こうから1人の僧が南無阿弥陀仏と念仏を唱えながらやってきます。自分の名前を呼ばれたと思いつ返事をしても、僧はきよんとするばかり。念仏と返事を繰り返すうち、どうやら南無阿弥陀仏は西方浄土の仏の名前だと教えられました。

そんなやり取りの後、ついには僧と2人謡い舞い、幕へと入ります。

みどころ

杯を重ねるうちに次第に酔いつぶれていく悪太郎。それを迷惑がりながらも大事な甥のこと、それをあしらう伯父の愛情が演技を通して表現できるでしょうか。

8月23日（土）新城文化会館で開催いたします。なお当日能、狂言の解説会も上演前に行います。

長篠・設楽原の戦いから450年

新城市設楽原歴史資料館 館長 湯浅 大司

令和7年は日本史の流れを変える大きな転換点の1つであり、私たちの新城が誇るべき歴史的な【長篠・設楽原の戦い】が新城で行われてから450年を迎える。戦いの様子は設楽原歴史資料館や長篠城址史跡保存館でご覧いただけるので、ここでは戦い直後から現在までの450年間、どのような出来事があったかを紹介したい。

■信玄塚と火おんどり

戦いの直後、戦場に住んでいた里人が先ず行わなくてはならなかったことは田畑に累々と横たわる将兵らの骸を埋葬することであった。平和な時代を生きる私たちには想像できないような過酷なものであったであろう。両軍あわせて、戦没者は1万5千人であったとも伝えられており、設楽原のあちこちに埋葬されたと思われるが、その象徴として「信玄塚」がのこされている。この信玄塚も450年という時の流れの中で変化をしている。古くは大勢の戦没者を埋葬したためか「千人塚」と呼ばれていたこともあるようである。また、戦没者を祀るために「火おんどり」という供養の祭が行われている。信玄塚から大量に発生した虫を追い

払うために始まった火の踊りが、供養の祭に変化していった。竹広の人々によって450年間絶えることなく続けられてきた供養であり、これこそが設楽原の決戦を今につなげる貴重な伝統芸能である。

■長篠城と新城

長篠城や設楽原もこの450年間に変化をしている。長篠城主の奥平信昌が家康の長女を妻に迎え、新たな城を築き、今の新城の基礎を築いた。長篠城はしばらくして廃城になったが、地域の人々によって大切にされており、現在では新城のシンボルの一つとなっている。

■設楽原の変化

設楽原でも平成28年には新東名高速道路が設楽原の北方に開通したり、その6年前には国道151号が設楽原の中央を通り抜けたりしている。これらは最近の大きな変化であるが、それ以前にも設楽原はそこに住む人々によって変化をしている。江戸時代の寛文7年(1667)には川路方面に水田を作るために連吾川を堰き止めて新しい用水を作った。昭和の終わり頃に圃場整備と河川改修が行われたときにこの用水が廃止されており、設楽原の風景が大きく変わった。

■供養の心

長篠城周辺や設楽原にはたくさんの石碑が遺されている。最も早く立てられた石碑は承応2年(1653)に設楽原の領主が信玄塚に建立した供養塔である。これ以降、あちこちに石碑が建立された。特に大正3年(1914)には長篠古戦場顕彰会が山県昌景や馬場信春といった武田軍の戦没武将の供養碑を建立、平成9年(1997)には設楽原をまもる会が金子諸山による『戦場考』に基づき石碑を建立した。

この戦いで忘れてはならない人物として鳥居強右衛門と鈴木金七郎がいる。特に強右衛門は地域のヒーローとして長く顕彰されると共に手厚く供養されてきた。地域の皆さんが主体となって始まった長篠合戦のぼりまつり(1966)や設楽原決戦場まつり(1990)は単なるイベントではなく、供養が必ず入っている。

■450年を記念して

100年前には350年祭、50年前には400年祭が開催されてきた。そして450年を迎える今年、戦国博覧会などのイベントを開催。これらのイベントは、長篠・設楽原の戦いをきっかけに多くの人々に新城へお越しいただくとともに、楽しく学び、見直すことも目的の一つである。次の500年に向けて。

編集後記

令和7年度の総会も、多くのご来賓に出席いただき、会員の皆様の大きなお協力を得て開催できました。いよいよ諸活動も本格化となり、本号も年度最初の号となります。総会関連の記事も多くありますが(P4・5)、内容としては熟読していただける紙面も多くあります。まず、市長下江様よりご寄稿いただき、ご自身の体験をも加えて、文化の発展・継承に対する多くのご示唆をいただきました(P2・3)。さらに新城市設楽原歴史資料館長湯浅先生には、長篠合戦後450年に因んで、戦い以後今に至る現地の様々な歴史について紹介いただきました(P8)。また新能の見所解説も復活しました(P7)。文芸欄は俳句を掲載(P5)。是非お読みいただきたいと思えます。活動の報告では、嬉しい事として、新加盟された社交ダンス(ゆりの会)のご紹介と、演奏100回を記念して実際に100人を超える演奏者を集め圧倒的な表現の舞台を成功させた吹奏楽の成果の報告もできました(P6)。今年も紙面の充実に努力いたします。(亀 甲)

新城市文化協会事務局

新城市字下川1の1
☎ 23-7656